



焼酎の醗酵音響による現代神楽「甕の音なひ」 住吉神社能楽殿ヴァージョン公演のご案内

概要

焼酎の醗酵音響を素材とした現代神楽「甕の音なひ」を、平成27年12月12日（土）に福岡市博多区の住吉神社能楽殿にて上演します。このたび、焼酎が醗酵する際に甕の中で鳴っている音に着目した作曲家・藤枝守（大学院芸術工学研究院・教授）の発案にもとづき、焼酎の蔵元、神社、博多水引のデザイナー、九州大学の音響テクノロジーの異分野コラボレーションが実現したことにより、新しい総合芸術が生まれました。これは、九州の象徴ともいえる焼酎、そして焼酎を取り巻く文化を、テクノロジーとアートによってとらえ直し、新たな発信力を持たせる斬新な試みです。

本公演は、九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボが、平成27年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」の一環で行うものです。

■公演概要

【日時】平成27年12月12日（土）開演16:00（開場15:30）

【会場】住吉神社能楽殿（福岡市博多区住吉3丁目1-51）

【演目】焼酎の醗酵音響による現代神楽「甕の音なひ」

【作曲・構成】藤枝守

【出演】笙・声：石川高、和琴・声：中川佳代子、舞：上杉満代、太田垣悠

声（地謡）：つむぎね～宮内康乃、森戸麻里未、ArisA、浦島晶子

声（口寄）：山崎阿弥、土笛：渡辺融

【入場料】一般¥2,000（前売）・¥2,500（当日）／学生¥1,500（前売・当日）全席自由

※公演終了後、アフタートークがございます。

ゲスト：石川高（雅楽家）、綾杉るな（作家・神社研究家）、長澤宏美（水引デザイナー）

進行：藤枝守（作曲家）

【主催】九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ

【共催】（公財）福岡市文化芸術振興財団、醗酵音響アートプロジェクト～藤枝研究室（九州大学）

【水引デザイン】長澤宏美（ながさわ結納店）

【音響】尾本研究室（九州大学）

【協力】京屋酒造（甕提供）、香椎宮（和琴提供）、Sho-Chu プロジェクト

【制作協力】ムジカキアラ

■特徴

今年3月、九州大学大橋キャンパスにて本パフォーマンスのプレビュー公演を行いました。このたび、住吉神社という「神のお膝元」で公演するにあたり、九州の歴史や文化、神聖な自然観がより一層あらわになるような演出を新たに加えています。舞台には五つの甕が登場し、五色の水引がそれぞれに結ばれます。甕の中で古来より響いてきた焼酎醗酵の音、神話、伝統的な和楽器が奏でる神遊びの音楽、コンテンポラリーダンサーと舞踏家が奉納する舞、そして生命の証である呼吸が生み出す自然な声、これらすべての要素が能舞台に流れる悠久の時間の中で一つに結ばれ、調和した世界が創成されます。これは、九州の地に根付く文化と、芸術工学研究院のアート、テクノロジーの協演によって、これまで人が聞くことのなかった小さな生命の営みに耳を澄まし、その神秘を体感する21世紀の神楽です。

【お問い合わせ】

ソーシャルアートラボ事務局

電話：092-553-4552

Mail：sal@design.kyushu-u.ac.jp

焼酎の醗酵音響による現代神楽

甕の音なひ

住吉神社能楽殿ヴァージョン



焼酎もろみが生まれる醗かめの奥深いところで
ひそかに鳴り響く醗はっこう酵の音。

その生命が躍動する音を

「音なひ」に見立てた現代の神楽。

能舞台の下から、そして、

五色の水引が結ばれた甕かめから、

きこえてくる醗酵の響きのなかに

アチメやイソラ、ツクヨミたちが現れる。

12月12日(土)

16:00 開演 (15:30 開場)

チケット 一般：2,000円(前売) / 2,500円(当日)
学生：1,500円(前売/当日)

会場 住吉神社能楽殿

【演目】キヨメ、アチメ、イソラ、ツクヨミ、イワト、オクリ、酒楽歌

【作曲・構成】藤枝守

【出演】笙・声：石川高 / 和琴・声：中川佳代子 / 舞：上杉満代、太田垣悠 /

声(地謡)：つむぎね～宮内康乃、森戸麻里未、ArisA、浦島晶子 / 声(口寄)：山崎阿弥 / 土笛：渡辺融

特設ページ <http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/kame.no.otonahi/>

【主催】九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ

【共催】公益財団法人福岡市文化芸術振興財団、醗酵音響アートプロジェクト～藤枝研究室(九州大学) 【後援】福岡県、福岡市

平成27年度 文化庁
大学を活用した文化芸術推進事業



大学から



MIZUHIKI design : Hiromi Nagasawa

「甕の音なひ」

醗酵の響きのなかに

「カミの声」がきこえてくる

藤枝守

「歌ひつつ 醗みけれかも 舞ひつつ 醗みけれかも」と古事記のなかに歌われている「酒楽」の歌。酒をつくるときの楽しさが伝わってきます。「醗す」とは、麹カビによる醗酵のこと。酒を生み出すこのような微生物の生命の営みを、古代人は「カミ」の仕業と考えていたのかもれません。酒は「カミ」への供物として、あるいは「カミ」と交感する媒体として、人間の生活のなかで欠かすことのできない存在となりました。

酒造りの源である「醗酵」は、そのエネルギー代謝の過程においてどのような響きを発しているのだろうか。九州の焼酎蔵元の方々と出会う機会があり、そのような醗酵の響きをきいてみようというアイデアが浮かんできました。そして、蔵元の方々の協力のもと、じつさに醗を湛えた甕やタンクの奥深いところに特別な養生をほどこした水中マイクを沈めてみたのです。すると、湧き立つような醗酵の響きがきこえてきました。身体の内側にまで浸透してくるようなその響きは、微生物の息吹ともいえる炭酸ガスの排出にもなるものですが、甕のなかにじつとひそんでいたカミが語りかけているようでした。「おとつれく音連れ」とは、カミが現れてくるときの音の気配のことだそうです。そして、聴き逃してしまいたいような微かな音のことは「音なひ」と呼ばれています。漢字学者の白川静によると、漢字をかたちづくる字形のひとつの「𠂔(サイ)は、祝詞を入れる器のことを指し、その器のなから「音なひ」がきこえてくるといわれています。「𠂔」とみだてた「甕」の奥深いところから発せられる「音なひ」としての醗酵の響き。「甕の音なひ」とは、このような象徴的な意味合いから生まれた現代の神楽です。

甕のなかの「音なひ」としての醗酵の響きを呼び出し、迎えるために「阿知女」や「磯良」、「月読」などの神話にまつわる歌や舞などの演目が執り行われていく。そして、能舞台の下から、さらには、五色の水引が結ばれた甕から「音なひ」がきこえてきます。

出演者



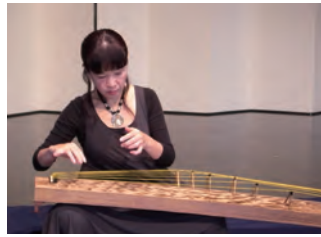
石川高(笙・声)

1990年より笙の演奏活動をはじめ、国内、世界中の音楽祭に出演してきた。近頃は催馬楽などの歌唱でも高い評価を受けている。雅楽古典曲のみならず、現代作品や自主作品の演奏、即興も情熱的に行っている。宮田まゆみ、豊英秋、芝祐晴各氏に師事。雅楽団体「伶楽舎」やローラン・テシュネ監督「アンサンブル室町」に所属。和光大学や学習院大学、沖縄県立芸術大学、九州大学などの講義を担当。また、朝日カルチャーセンター「古代歌謡」担当。



つむぎね(声(地謡))

2008年より作曲家・宮内康乃を中心に結成した、音楽パフォーマンスグループ。楽譜ではなく、呼吸の長さの違いなどをそのまま活かした単純なルールをもとに、おもに声や鍵盤ハーモニカを使って空間上の響きを紡ぎ出していく独自のパフォーマンスを展開する。また演奏活動の他、そのアプローチをもとに誰もが参加して声を紡ぐ、ワークショップにも力を入れている。2008年度トーキョーワンダーサイト主催「Experimental sound and art festival 2008」最優秀賞受賞。
<http://www.tsumugine.com>



中川佳代子(和琴・声)

高崎芸術短期大学卒業。NHK邦楽技能者育成会卒業。1994年青山音楽賞。1998年文化庁芸術研修員認定。2002年賢順全国浄曲コンクール最高位「賢順賞」受賞。2013年京都市芸術文化協会新人賞受賞。現代曲の初演、洋楽器やダンスとの共演、オペラ、即興など様々な場面で活動。最近では「ウタ」「声」を伴う作品演奏にも力を入れている。沢井忠夫氏、沢井一恵氏、岩堀歌子氏に師事。また、地元京都の松尾大社「観月祭」にて毎年奉納演奏を行う。



山崎阿弥(声(口寄))

声のアーティスト、映像・造形作家。声で空間の陰影・響きを感じしパフォーマンスやインスタレーションによってその拡張・変形を試みる。国際芸術センター青森やロイヤルメルボルン工科大学でのレジデンス制作・作品発表のほか生西康典、七里圭作品への出演、灰野敬二、館屋法水、坂田明、外山明、鈴木昭男らとの共演、伊勢神宮での歌唱、ドローイングアンドマニユールや中山兒子らに映像との共作など分野を亘り共創する。



上杉満代(舞)

舞踏家。福岡県出身。改名前は上杉貢代。7歳よりクラシックバレエを習い、1970年より舞踏家大野一雄に師事。ソロ活動後、渡仏。欧州、米国等でコンテンポラリー・演劇等、共同公演を多数行う。帰国後、アヒルスタジオ主宰。フランス各地国立振付センターにてワークショップ。1993年、太田吾吾演出の演劇「砂の駅」に出演。2005年には和栗由紀夫と共演し、大野一雄と土芳葉の弟子同士と同じ舞台に立ったと話題になった。2006年には上海泰熈工場のプロデュースで三上寛とコラボレーション公演を行った。2008年より明治学院大学非常勤講師。



渡辺融(土笛)

九州大学芸術工学部芸術学院修士課程修了。古代の土笛と創作楽器としての土笛を研究。香椎宮雅楽保存会、ジャガムラン演奏グループ「Pratiwi」に所属。社会福祉法人「明日へ向かって」の音楽活動ディレクターとして、2014年よりインドネシアからガムランを導入して知障がいがある人と音楽実践を行っている。



太田垣悠(舞)

東京でバレエを始め15歳で渡仏。国立リヨンコンセルヴァトワールを首席で卒業後、リヨンオペラ座バレエ団に入団。サシャ・ワルト、トリシャ・ブラウン、マギー・マランなど幅広いコンテンポラリーダンスのレパートリーを踊る。2008年から2014年までスイスのジュネーブ大劇場バレエ団に所属。2014年よりフリーとなりラシド・ウラムダンやオレリアン・ドゥジェなどの作品を踊りつつ、仏バレエ教師国家資格を生かしスイスや日本でプロアマチュアにバレエやコンテンポラリーダンスを教えている。

長澤宏美(水引デザイン)

水引デザイナー／ながさわ結納店。九州産業大学芸術学部デザイン学科卒業後、ロイヤル株式会社デザイン室に入社。株式会社福岡マドラ、タキオノスタジオを経て、株式会社電通クリエイティブディレクション局で勤務。家業の博多水引で修行。7年前より後継者となり、現在、水引デザイナーとして活動。

藤枝守(作曲・構成)

カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部博士課程修了。博士号(Ph.D. in Music)を取得。《オーケストラの修辭学》で第5回入野賞、第7回日本現代芸術奨励賞。国立劇場、東京混声合唱団、神奈川芸術文化財団、オーケストラ・アンサンブル金沢、ジャパン・ソサエティなどから委嘱を受ける。著書に『響きの考古学』など。最近のCDとしては、西山まりえの演奏による《ゴシック・ハーブの植物文様》やサラ・ケイヒルのピアノによる《Patterns of Plants》など。九州大学大学院芸術工学研究院教授。

【アフタートーク】ゲスト：石川高(雅楽家)、綾杉るな(作家・神社研究者)、長澤宏美(水引デザイナー) 進行：藤枝守(作曲家)

【お問い合わせ】

九州大学ソーシャルラボ
TEL: 092-553-4552 HP: <http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/>

【チケット予約】

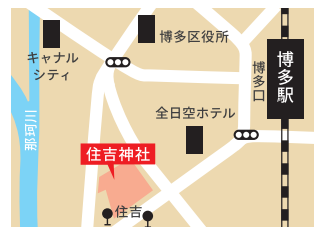
イープラス <http://eplus.jp>
ムジカキアラ TEL: 03-6431-8186 (平日10:00-18:00) E-mail: info@musicachiara.com
※メールでチケットをお申し込みの場合には、お名前、ご住所、お電話番号、ご希望枚数をご明記ください。当日、会場での精算となります。

【会場】

住吉神社能楽殿
〒812-0018 福岡市博多区住吉3丁目1-51
TEL: 092-291-2670 HP: <http://chikuzen-sumiyoshi.or.jp>

【注意事項】

- ・未就学児童の入場はご遠慮ください。
- ・会場には暖房設備がございません。暖かい服装でお越し下さい。



- JR博多駅・地下鉄博多駅より徒歩約10分
- 西鉄バス「住吉」下車、徒歩約2分

【水引デザイン】長澤宏美 【舞台監督】アクトワン 【音響】尾本研究室(九州大学)

【協力】京屋酒造(甕提供)、香椎宮(和琴提供)、Sho-Chuプロジェクト 【制作協力】ムジカキアラ 【広報デザイン】斎藤俊文、池田美奈子、関ジーエー・タップ